

第1学年 国語科学習指導案

1組 計24人 (男子12人,女子12人)

指導者 豊重 真奈美

1 単元 くらべて よもう (教材「じどう車くらべ」 光村1年上)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、教材「いろいろなくちばし」の学習を通して、挿絵と文を照らし合わせながら書かれていることの大体を楽しんで読み取ることや、説明文の基本的なパターンである「問い」と「答え」の文型を学んできた。

そこで、これまでの学習を生かしながら、問題提示の文を受けて、自動車の「しごと」と「つくり」という2つの事柄を、書かれている順序に沿って読み取っていくことをねらいとして本単元を設定した。

教材「じどう車くらべ」は、子どもたちのよく知っている自動車を題材にしているので、子どもたちが、興味・関心をもって主体的に読み進めていくことができるものとなっている。また、本教材は、四つの意味段落からなり、第1段落で、話題と問題提示、第2～4段落では、3種類の自動車の「しごと」と「つくり」を同じ順序で繰り返し説明されている。そのため、子どもたちが、事柄の順序を考えながら読み進めるのに適した教材であるといえる。

本単元で子どもたちは、それぞれの自動車の説明について内容の大体を読み取ることに加え、読み取った事柄について、繰り返し出てくる接続語や文末表現に着目させ、比べることで、説明文の構成や文型に慣れることができる。また、図鑑作りを通して、教材文を参考にしながら、自分の好きな自動車の「しごと」と「つくり」についての簡単な説明文を書くことができる。さらには、他の自動車への興味・関心が高まり、進んで科学的な易しい読み物に触れることで、読書生活がより豊かになっていくと考えられる。

ここでの学習は、特徴や違いを考えながら内容の大体を読み取る「ちがいをかんがえてよもう どうぶつの赤ちゃん」の学習へとつながっていく。

(2) 単元の目標

自動車の「しごと」と「つくり」に興味をもち、図鑑を作るために自動車についての絵本や図鑑を読もうとする。 【国語への関心・意欲・態度】

3種類の自動車について、「しごと」と「つくり」の関係を考えながら内容の大体を読み取ることができる。

語や文のまとまりを考えながら声に出して読むことができる。 【読む能力】

教材文を参考にして、選んだ自動車について、「しごと」と「つくり」を説明する文を書くことができる。 【書く能力】

片仮名で書く語を正しく読んだり書いたりすることができる。

【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、学習に対する興味・関心が高く、楽しんで学習に取り組んでいる。自分が体験したことや発見したことなど周りの人に伝えたいという気持ちをもち、発表も進んで行っている。しかし、伝えたいことをうまく言葉にできなかつたり、恥ずかしくて大きな声が出せなかつたりする子どももいる。そこで、発表の仕方や聞き方については、大勢の前で話すことに慣れさせたり、聞き方の約束を決めたりするなど、指導を行っている。音読は、家庭学習で意欲的に取り組んでいることもあり、自信をもってすらすら読める子どもが多い。想像したことを書いたり、自分の考えを書き表したりする活動は、基本文型を真似たり、吹き出しに短い言葉で書き表したりすることができるようになってきているが、書く速さについては個人差が大きい。

イ 本単元の内容に関わる実態

1 乗り物の名前を書きましょう。 【絵を見て】
バス 24名 トラック 20名 クレーン車 11名 消防車 18名 乗用車 0名
2 問いの文と答えの文を見つけることができるか。
適切にできている 16名 問いだけ 4名 答えだけ 1名 曖昧である 3名
3 内容の大体を読むことができる。
適切にできている 17名 曖昧である 7名

本学級の子どもたちは、交通量の多い地域に住んでいるために、日頃からいろいろな乗り物を目にする機会が多く、乗り物の名前をよく知っている。教材に出てくる「バス・乗用車」「トラック」「クレーン車」については、校内から工事現場や道路が見えるので、多くの子どもたちが毎日のように目にし、知っている。ただ、子どもの中では、「車」「自動車」という呼び名は一般的に「乗用車」のことを指し、そのため乗用車という名前については馴染みのない言葉であることがわかる。また、説明文の中から「問い」と「答え」の文を見つけることは、全体の7割程度の子どもたちが、適切にできている。このことから、多くの子どもたちが、「問い」と「答え」の基本文型を理解し、ある程度、過去の「学び」が定着していると言える。

読書傾向については、絵本を中心に読んでいる子どもがほとんどである。しかし、一部の子どもたちは、科学的読み物にも興味をもち、見つけてきた虫や幼虫など図鑑を使って、名前を調べている。また、図鑑を使う際、検索を使って調べられる子どももいる。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子ども一人一人の「学び」が生きるように、以下の点に留意して指導していく。

「つかむ」場面では、1学期教材「いろいろなくちばし」を説明的文章のプレ教材とし、「問い」と「答え」の文型、絵と文を対応させながら読んできたことを想起できるようにする。また、自動車の一部だけ見える絵を提示し、クイズ形式で自動車の名前を当てる活動を取り入れることで、前単元の「学び」を生かしながら、いろいろな自動車に興味・関心をもち学習を進めていくことができるようにする。さらに、本単元で学習したことを生かして、「じどう車ずかん」を作ること知らせ、目的をもって楽しく読み進められるようにする。そのために、自動車の「しごと」と「つくり」がわかる本や図鑑を準備し、並行読書ができるようにする。

「深める」場面では、文章の比較ができるようにするために、前時の教材文を上段に、本時の教材文を下段に配置したワークシートを準備する。これにより、前時と本時の読み取った事柄を比べ、叙述に即した確かな読みができるようにする。その際、各授業の終末に自動車役とインタビュー役に分かれて、その特徴について聞き合う「自動車インタビュー」をすることで、読み取った「しごと」と「つくり」がより確かに理解できるようにする。また、読みの視点として、「しごと」と「つくり」を示し、それらに色分けしたサイドラインを引かせることを繰り返すことで、サイドラインを引くことに慣れることができるようにする。さらに、「そのために」という言葉に着目させ、いくつか例文を提示し使い方の練習をすることで、言葉の使い方を理解し、生活の中で活用することができるようにする。

「味わう・高める」場面では、まず、「深める」場面で学習したことを基に「はしご車」の「しごと」と「つくり」について、全体で確認しながら書くことができるようにする。その後、これまでの学習を生かして子どもたちが意欲的に「じどう車ずかん」を作ることができるようにする。その際、できるだけ自力で取り組めるように、教材の構成を参考に書けるワークシートや「しごと」と「つくり」を色分けしたカードを準備する。

「まとめる・広げる」場面では、できあがった「じどう車ずかん」を発表したり、聞いたりする際に、自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文型になっているか確かめ、いろいろな自動車について関心を深めることができるようにする。また、聞き方や話し方の観点を与え、友達の話し方のよさを見つけることができるようにする。

4 指導計画(全8時間)

は研究の視点に関する内容

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	1	1 題名から知っている自動車を出し合い、「これは、なんでしょう。」クイズをする。	<p>いろいろな自動車の名前を挙げさせたり、挿絵の一部だけを見せた「これは、なんでしょう。」クイズをしたりすることで、本単元への学習意欲を高めることができるようにする。</p> <p>単元の最後で「しごと」と「つくり」のわかる「じどう車ずかん」を作ること知らせ、目的意識をもちながら読み進めることができるようにする。</p> <p>自動車に興味をもって発表し、意欲的に学習に取り組もうとしているか。(発表・観察)</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】</p>
		2 説明的文章での学習内容と学び方を想起する。	
深める	3	3 話し合ったことを基に、学習課題をつかみ、学習計画を立てる。	<p>並行読書ができるように、関連図書一覧に書かれている本を準備し、コーナー作りをする。</p> <p>前時と本時の教材文の文章について比較ができるワークシートを活用することで、読み取った事柄を比べ、叙述に即した確かな読みができるようにする。</p> <p>「しごと」を赤、「つくり」を青に色分けしたサイドラインを引くことを繰り返すことで、説明文の構成や文型に慣れ、自力解決ができるようにする。</p> <p>叙述を挿絵や模型と結びつけて読み進めたり、動作化したりすることで、説明されている事柄をよりはっきりとイメージして読むことができるようにする。</p>
		4 新出漢字と片仮名の練習をする。	
高めうる	3	5 教材文「じどう車くらべ」を読む。 バスとじょうよう車 トラック クレーン車(本時) 「しごと」と「つくり」について読み取る。	<p>挿絵や言葉を手がかりにしながら、自動車の「しごと」と「つくり」の関係を読むことができたか。(ワークシート,発表)【読む能力】</p> <p>語や文のまとまりを考えながら声に出して読むことができたか。(音読,発表)【読む能力】</p>
		6 これまでの学習を生かして、はしご車の「しごと」と「つくり」について説明する文章を書く。	
味高めうる	3	7 必要な情報を収集する。	<p>これまでのワークシートや教材文を振り返り、文末表現や主述の関係に着目させることで、自分の選んだ自動車の「しごと」と「つくり」のわかる文章を書くことができる。その際、子どもの実態に応じた支援策として、教材文を参考に書けるワークシートや「しごと」と「つくり」を色分けしたカードを準備し、「そのために」でつないで書くことができるようにする。</p> <p>選んだ自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文を書くことができたか。(作品,観察)</p> <p>【書く能力】</p>
		8 自分の選んだ自動車の「しごと」と「つくり」のわかる文章を書く。	
ま広げめる	1	9 カードに清書し、絵を入れる。	<p>関鑑の紹介をするときの話し方や聴き方の観点をいくつか与えることで、友達のがんばりを見付けることができるようにする。また、完成した関鑑を図書室に展示することで、学習の達成感を味わせるとともに、互いの作品のよさを交流することができるようにする。</p>
		10 学習のまとめをする。 完成した関鑑を見せ合い、「しごと」と「つくり」について感想を発表し合い、学習のまとめをする。	

5 本 時 (4 / 8)

- (1) 目 標 クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。
 (2) 展 開 教師の言葉かけ () 予想される子どもの反応 ()

重点評価項目 () は個に応じた指導

過程(分)	主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 ど も の 反 応	教 師 の 指 導
つ か む (5)	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 学習の課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クレーン車の「しごと」と「つくり」をしらべよう。</p> <p>3 学習の進め方について確認する。 ・ クレーン車の「しごと」と「つくり」を探す。 「～のしごとをしています。」「そのために～います。」に気をつける。 しごとは、赤線。つくりは、青線。 ・ 挿絵と文を比べよう。</p> <p>4 学習範囲を音読し、挿絵と文を照応させながら、クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クレーン車は、どんな「しごと」をする車ですか。 どこに書いてありますか。挿絵ではどこになりますか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重いものをつりあげる仕事をしています。 とつても長いうでがあります。学校の近くでも仕事をしています。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重いものをつりあげるために、クレーン車はどんな「つくり」になっているのですか。それは、どこに書いてありますか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・「そのために」という言葉の後に、「つくり」が書いてあります。 ・じょうぶなうでが、のびたりうごいたりします。 ・車たいがかたむかないように、しっかりしたあしがついています。</p>	<p>前時のトラックの「しごと」と「つくり」を振り返ることで、本時のクレーン車の学習に意欲付けができるようにする。 前時までと同じ方法で読み取らせることで、前時までの学びを一人調べに生かすことができるようにする。また、前時までの教材文を掲示しておくことで、本時の参考になるようにする。 「しごと」と「つくり」を読み取ることを確認することで、読みの視点が明確になるようにする。 前時と本時の教材文を上下に示した、比較しやすいワークシートを準備することで、これまでの学習を手がかりにして、一人で考えたり思考を助けたりすることができるようにする。 挿絵と文を照応させたり、動作化をさせたりすることで、叙述に即した確かな読みができるようにする。その際、「車たい」「うで」「あし」などの言葉と挿絵を線でつなぐようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取ることができたか。 (ワークシート、発表)【読むこと】</p>
深 め る (25)	<p>5 「クレーン車」と「トラック」になって、お互いの「しごと」と「つくり」をインタビューする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わたしは、荷物を運ぶ仕事をしているのよ。きみは、どんな仕事をしているの。 ぼくは、重いものをつりあげる仕事をしているんだ。</p> <p>6 今日の学習の範囲を読む。(一斉音読)</p> <p>7 本時の学習をまとめる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おもいものをつりあげるしごとをしています。 じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするようにつくってあります。 車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついています。</p>	<p>複合語「つりあげる」や並列の「～したり～したり」言葉の作りや使い方を理解し、生活の中で使えるように、いくつかの例を準備する。 ペアでクレーン車の「しごと」と「つくり」をインタビューし合うことで、読み取ったことをより確かに理解したり他の自動車と比べたりできるようにする。 学習課題に返り、クレーン車の「しごと」と「つくり」の文型に着目させることで、本時のまとめができるようにする。</p>
ま と め る (5)	<p>8 次時の学習を確認する。</p>	